

園名 檜原市第5こども園新沢幼稚園・川西保育所

はばたくなら④

いきいき・ワクワク遊ぶ子どもを目指して
～保育者が学び合える環境～

2歳児

取組について

○本園では、「心も体もはずむ笑顔あふれるこども園」～遊びを通して子どもの主体性を育む～をテーマとして研究を進めている。そこで、職員間で子ども理解を深め、子どもたちが“やってみたい”“遊んでみたい”と思える環境作りはどうすればいいかを考え、話し合いを進めた。夢中になる遊びの中で、子どもたちの内面が輝いていく。その子どもの輝きを発見していきたいと思っている。

○『子どもが安心して過ごせる環境があることで、自由に自分を表現することができ、自尊感情を育てる土台となる。』と考え、保育者との信頼関係の中、のびのびと過ごすことができるように子どもたちの今の姿を知り、一人一人の子どもが安心してやりたい遊びを十分に楽しみ、満足感や達成感を味わえるように遊びの環境を見直したり、夢中になれる遊びや玩具は何かを考えたりし、子どもたちの興味・関心を高められるような環境設定をするようにした。

<園内研修>

・なないろタイム…園全体での話し合い ・各クラスの園内研修(随時)

・にこにこタイム…0.1.2.3.歳児での話し合い

なないろタイムは2週間に一度、にこにこタイムは1ヶ月に一度する中で、子ども理解を深め、主体的に遊ぶにはどうすればいいかを話し合い、環境構成のアイデアを出し合った。子どもたちが自ら遊びを見つけ夢中になって遊んでほしい、好きな遊びを通して保育者や友達とのかかわりを楽しんでほしいと思い、話し合いを深めた。

実践事例

【一人一人が好きな遊びを楽しみ、遊んでみたいと思える環境とは】
～安心して過ごすことで自主性が育まれ、落ち着いて遊ぶことができる～

①子どもたち一人一人を知る。

・子どもの様子を毎日伝えあう。・生活の中で芽生えた、子どもの興味や好奇心を共通理解する。 → ICTを活用した日案に記録する。

②担任間で意見や思いの共通理解をする。

担任全員が同じ記録を読み、理解を深める。

【クラス推進】

・気になる子どもの姿やその子どもとの関わりを振り返り、それぞれの考えを出し合い、より良い子どもとの関わりを探る。
・様々な子どもの姿や支援を必要とする姿、園全体で見守ってほしい姿などを月1回の推進として園全体で共有している。

他クラスの職員にも知らせることで、きょうだい関係のことで情報を知ることができたり、アドバイスをもらうきっかけになったりする。

③保育室の環境構成を工夫する。～安心して過ごすことができる環境づくり～

【ロッカーの置き方を試行錯誤する】

・1クラス24名と人数が多く、2つのグループにどのように分かれるか、安心して生活ができるための配置はどうかについて考える。
・安心してできる場所、落ち着いて生活ができる場所となるようにコの字型に配置してみたが、ロッカーが高く、死角ができて安全面に不安があった。

→ロッカーを背中合わせにすることで死角をなくし、安全な環境の中で2つのグループに分けることができた。



【子どもたちが好きな生き物コーナーについて】

・初めは安全面も考慮し、高い所で飼育していたが、子どもが見えなかった。

→目線の高さにしたことで、子どもたちは喜んでいたが、水槽に玩具を入れ始めた。

→フタをしたり、子どもたちがエサやりをしったりする経験から、

生き物を大切にすることが育ち始めた。

【絵本コーナーを自由に見られる環境にするために】

→絵本コーナーを数カ所にする。

→絵本の種類、数を十分に用意する。



寝ているクマさんのイラストをつけたことで、《片付け＝絵本もおやすみ》というイメージをもつことができた。



【遊びの環境づくり】～ワクワクやってみたい、遊んでみたい環境づくり～

・発達や年齢によって、ままごと遊びの食器や食べ物に見立てる玩具が違ってくる。必要な量を十分に用意する必要がある。

・保育者のかかわり、言葉がけで遊びが広がり、子どもの夢中に遊ぶ姿につながったり、遊びの盛り上がりにつながったりする。

④園全体でも共有し、意見を出し合う。【写真や動画を使って記録をする。】

・10の姿に沿って子どもの姿を捉える。・保育ドキュメンテーションを活用する。(ICT)
(10の姿の表が入った用紙に記入し、全職員が見られるように掲示する。)



遊びの様子や子どものつぶやき、友達同士のかかわりなどの事実記録をする。また、10の姿のどの項目につながっているかを共に考え、葉っぱに色をつける。

写真をもとに遊びの流れや友達とのかかわりの振り返りのために作成。
↓
印刷して掲示することで、職員同士で意見交換もできる。



【なないろタイム】

・園全体の方向性を話し合うとともに、各クラスの子どもの実態や遊びの様子などを共有。コロナ禍で子ども同士との直接的な交流は難しいが、できる形での交流を図るため、考えを出し合ったり、遊びのアイデアを出し合ったりしながら、今後の遊びの方向性などについて共通理解をしている。

園全体で悩みを共有し、保育に生かすためには・・・

PLAN 【担任間で環境構成の工夫】

(計画) 子どもの興味や実態に合わせ、より安心して充実した遊びを展開するための環境構成について、毎月話し合い・改善の時間を設定。



【なないろタイム】

子どもの遊びの様子や悩みを共有することで、「発達や年齢に合わせた玩具を考え直したり、様々な素材で作ってみたいしたらどうか」など、アドバイスをもらう機会となった。

DO (実行) 【遊びとともに・・・】

ジュースやさんごっこでは、柔らかくて、様々な色で味のイメージが膨らみやすい毛糸を三つ編みし、ジュースに見立てられるようにした。

【ICTを取り入れた意見交流】

遊びの様子を動画撮影し、園内で配信することで、他の職員からの意見を聞く機会を設定。付箋に記入してもらうことで、様々な意見を集める。



CHECK 【日々の記録による評価・反省】

(評価) ままごとコーナーが1ヶ所しかなく、子どもたちが集中してしまい、玩具も散乱し、落ち着いて遊ぶことができない状態になっていた。毛糸でのジュースやさんごっこでは、「〇味だよ～」と保育者や友達に届ける姿につながった。

【にこにこタイム】・【園内研修】

集まった付箋や、まとめた実践、動画などを用いて研修をする。今回のままごと遊びについては、「レジャーシート、クッションなど様々な素材を取り入れることで、遊びが深まるのではないか。」という意見もあった。



ACTION (改善) 【遊びの環境の見直し・改善】

玩具をただ広げているだけの遊び方。



「同じ遊びでも2つのスペースに区切ってみたらどう？」とのアドバイスをもらい、2ヶ所にままごとコーナーを作ったことで、子どもたちが落ち着いてままごと遊びを楽しめる環境になってきた。



☆一人一人が満足できるままごと遊びとは

〇2歳児(進級、入所時～)

「ママ～」と泣いて登園し、保護者を追いかけたり、保育室に入ることができなかつたりする姿があった。

また、不安な気持ちを保育者に受け止めてもらったり、2グループに分かれて生活をしたりすることで、安心して過ごすことができるようになってきた。

SEE(子どもの姿)

〇2歳児(6月～8月頃)

ままごと遊びでは、料理をしたり、お弁当をつくらうことを楽しんでいる。しかし、同じ場所、遊びに集中するため、玩具の取り合いでのトラブルや、大きな声を出すなど、落ち着いて遊ぶことができていなかった。一人一人が落ち着いて過ごしながら遊びを満足できる環境にしていくにはどのようにしていくべきなのかを考えた。

【レジャーシートでピクニック】

「ピクニック行ってくる！」というつぶやきから、レジャーシートを出すと、子どもたちの中で「ピクニック」というイメージが膨らんだ。また、ままごとコーナーとは別の場所ができ、落ち着いて過ごしていた。



レジャーシートは柔らかく、子ども同士で一緒に畳み、片付ける姿があった。



出てきたよ!



一緒に畳もう♪



クリームをのせたよ♪

【毛糸でジュースやさんごっこ】

毛糸をペットボトルに入れたり出したりすることで、『つまむ』『引っ張る』などの指先の運動にもつながった。

【クリームをトッピング♪】

ふわふわの綿を遊びの素材として用意すると「先生、クリーム!」「あわあわ」と言いながら、ジュースにのせて見立て遊びにつながった。



〇2歳児(10月頃)

生活上の2つのグループが定着し、落ち着く場所ができたり、自己を表現したりする姿が見られるようになってきた。「何でもやってみたい」という気持ちが高まり、遊びの中でも、様々な玩具に挑戦するようになってきた。



(まとめ)

・園の取り組みを園全体で共通理解するため、なないろタイムやにこにこタイム、園内研修を行っている。子どもの実態を把握し、夢中になって遊び始める環境づくりについて意見を出し合い、子どもの育ちにつなげられるようにしている。このように意見を出し合うことは、相談者だけでなく、参加者全員の保育観を深められる機会となっている。

・子どもたちが好きなままごと遊びから、ピクニックやジュース屋さん、様々なごっこ遊びが始まった。イメージを膨らませ、色や形を見ながらジュースやごちそうを作ったり、「〇ちゃんみたいになりたい」と友達に真似をしたりしながら遊びが広がっていった。「やってみよう」、「楽しい」という子どもたちの姿が見られるようになり、夢中で遊ぶ中で自分らしさを発揮することができていると感じている。

(成果)

・子どもの興味・関心や子どもの姿などから、玩具を用意したり、遊びの環境をその都度工夫したりすることで、子どもが自ら遊びを選んでじっくりと楽しめる環境をつくることができた。

・子どもとの愛着関係を基盤に、保育者が子どもの姿や思いを受け止めることで、子どもたちの情緒の安定や、「やってみよう」と挑戦する気持ちなどにつながった。そして、その思いが主体性を育てていくものであると考える。

・その都度、職員間で子どもの姿や環境、保育者の悩みを共有し、意見を出し合いながら一緒に進めていくことで、子ども理解につながった。

(課題)

・子どもたちが主体的に遊び始められるように、子どもがやりたいと思えるような玩具や環境を日々整えていくことが大切である。

・子どもとの愛着関係をもとに、できた喜びや楽しさに共感することを大切にし、自尊心を育てていくことを大切にしていきたい。

・今後の子どもの成長・発達を見据え、保育者が仲立ちとなりながら、言葉のやりとりをする機会を増やすことで、自分の思いを伝えられる喜びを感じたり、社会生活での経験を遊びに生かそうとする子どもの姿を共有したりしていくことで、したい遊びをのびのびとできるようにしていきたい。

・子どもの姿を捉え(SEE)、子どもの経験につなげていくために、PDCAサイクルをもとに、記録や職員間での情報共有を大切にしながら、今後も子ども理解を深めていきたい。